



第 5 号

1988年 9月

岡山県古代吉備文化財センター

西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様

最近の発掘調査から

なか やま にし
中山西遺跡 —真庭郡川上村—

中国横断自動車道の建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、昭和62年度の遺跡確認調査に引き続き、本年度から本格的に開始しました。

本年度の調査は、真庭郡川上村西茅部に建設される川上インターチェンジ建設予定地内に所在している、中山西遺跡・城山東遺跡を対象としておこなっています。今回の報告は、この4

月から8月にかけて調査をおこなった中山西遺跡について説明していきます。

岡山県の北部、鳥取県との県境に接する真庭郡川上村には、その東隣の同郡八束村とにまたがって、東西14km・南北1.5km程の東西に長い山間盆地がひろがっています。この盆地は古蔭山原湖のなごりで、大山の火山活動とともにこの



中山西遺跡 縄文時代早期竪穴住居址



中山西遺跡 全景（南西から）

湖水が東流をはじめ、現在の旭川になったといわれています。その際に侵食作用によって現在の盆地の縁辺部の各所に河岸段丘が形成されました。中山西遺跡は、こうした河岸段丘上に営まれた遺跡の1つで、今回の調査は、インターチェンジの建設に先立つ工事用道路部分の2,700㎡に相当します。標高は約530mであり、丘陵の北側を東流している旭川の水面からは約40mの比高を計ります。そしてここからは、大山から蒜山三座にかけての山々が一望にできます。この中山西遺跡では、下記の3時期にわたると考えられる遺構・遺物などがみつかっています。

縄文時代早期の遺構

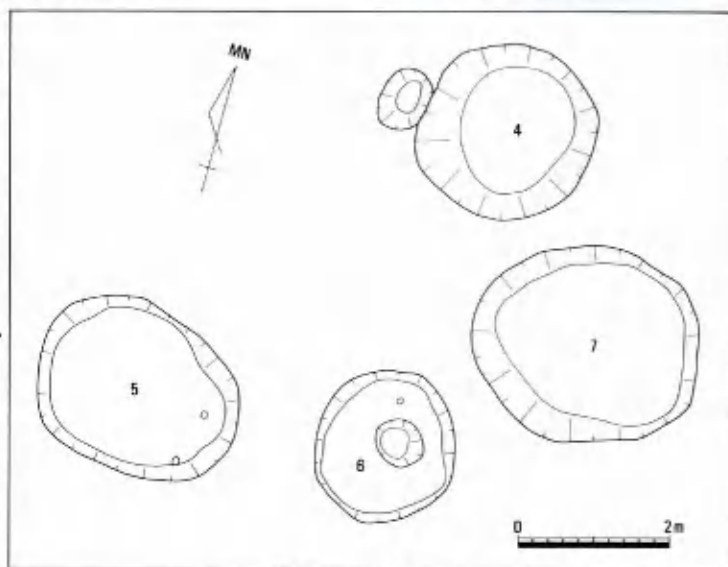
厚さ30～40cmの黒ボクを排除した黄色のソフトローム面で4基検出されました。(遺構4～7)。これらは竪穴住居址と考えられます。各遺構の規模・形態は以下の通りです。遺構4—径2.2m・円形プランを呈する。遺構5—2.8×2.2m・楕円形プランを呈し、床面には柱穴と考えられるピット2か所をもつ。遺構6—径約2m、ほぼ円形のプランを呈し、床面には径約50cmのピットと、柱穴と考えられるピット各1か所をもつ。遺構7—2.9×2.5m・楕円形プランを呈する。いずれの遺構も、壁は外にむかってやや開き気味に立ちあがっています。

また検出面から床面までの深さは、遺構5～7が20cm～40cmであるのに対し、遺構4は約80cmと深くなっています。遺構4と遺構7には、柱穴と考えられるものは確認できませんでした。床面は遺構5と遺構7がほぼ水平であるのに対し、遺構4と遺構6は床面中央部にかけてややくぼんでいます。遺構4と遺構6は、形態・規模などから竪穴住居以外の性格も考えられます。

これらの遺構に伴う遺物には、土器・石鏃・黒曜石片・サヌカイト片などがあります。土器は縄文時代早期の押形文土器が主で、その大半は山形文ですが、楕円文も少量あります。また僅かではありますが、縄文や条痕文を施したものも含まれています。石鏃は遺構5と遺構7か



竪穴住居址内出土遺物



縄文時代早期 竪穴住居址(S=1/100)

ら1点ずつ出土しています。

県下でも縄文時代早期の住居址の調査例は極めて少ないうえ、この比較的早い時期から竪穴状の住居が存在したことが確認されたことなど、当時の住居や生活あるいは社会を復元する上で貴重な資料と考えられます。

縄文時代早期以前の遺構

前述の竪穴住居址と同じ面で4基の土壙が検出されました。遺物がなため明確な時期は確定できませんが、土壙内の埋土に黒ボクがみられないことから、黒ボクの形成以前に作られたものと考えられます。縄文時代早期の竪穴住居の埋土に黒ボクが流入していることを考えれば、この4基の土壙は縄文時代早期以前に遡ると考えられます。このうち残存状況の良好な遺構12について記述します。検出面では1.4×0.85mの楕円形、底面は1×0.35m程の隅丸長方形を呈し、深さは1.2m程あります。そして検出面から底面にかけては、次第に狭くなるような形状を示します。他の3基の規模・形態についても、この遺構12とほぼ同様と考えられます。

この土壙の性格については、狩猟に用いられた「落とし穴」ではないかと考えています。

旧石器時代の遺物

地表下1.2~1.4mにわたって始良丹沢火山灰(A T火山灰)の堆積が確認されました。この火山灰は、今から約22,000年前、現在の鹿兒島湾にあった火山の噴火のために堆積したものです。この火山灰層の下の淡黄色粘質土から旧石器時代の遺物が出土しています。遺物は炭化物と石器製作に関連した石片です。これらは始良丹沢



遺構 12



A T火山灰下遺物出土状況



A T火山灰下出土石器

火山灰層の直下から20cm程のレベル差をもって出土しており、また面的にもひろがりを見せて、数個のブロックを形成しているようです。遺物は現在整理中ですが、石核・剥片・碎片など1000点近くが認められています。製品あるいは加工痕・使用痕のある剥片なども20点前後出土しています。これらの石材はほとんどが水晶で、次いで黒曜石が多く、僅かに石英や安山岩などの石材がみられます。また大形の礫も10数点出土しています。以上が中山西遺跡の概要です。

(大智 浩)

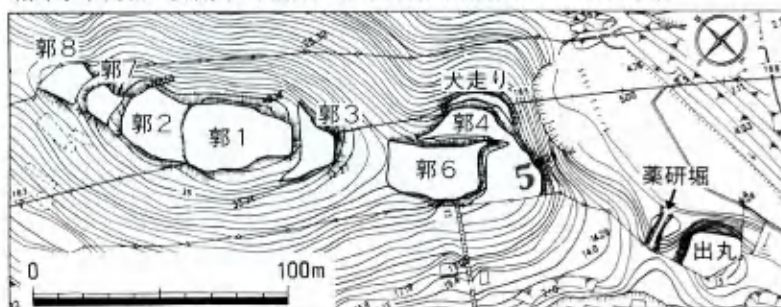
ほ さき てん じん 甫崎天神遺跡 一岡山市津寺一

甫崎天神遺跡（岡山市津寺）は山陽自動車道建設に伴い昭和62年4月から昭和63年8月まで発掘調査を実施しました。甫崎天神遺跡は天神山（標高42m）の頂上部分を中心にひろがっており、城郭・4基の前半期（4～5世紀）の古墳、1基の後期（6世紀）の古墳、弥生時代後期～古墳時代前期の多数の木棺墓・土壘墓・壺棺・縄文時代の遺物包含層などがありました。

特に注目されるのは甫崎天神山城です。天正10年(1582年)羽柴秀吉は中国地方攻略のため備前・備中の境に進出し、有名な高松城の水攻めをおこないます。それに対して中国地方の大半を制覇していた毛利輝元は高松城の救援、秀吉との対決のため、小早川隆景、吉川元春を将として足守川の西岸に大軍を派遣します。天神山はその時に主要陣地の一つに利用されており、毛利氏の山陰平定に活躍した杉原播磨守盛重らが布陣することになっていました。発掘調査の結果、山頂から東西の尾根にかけて城の遺構が

検出されました。

高松城を北にのぞむこの甫崎天神山城は丘陵の頂部に3つの郭面(平坦面)、要の尾根部分に2つの郭面、東の尾根部分に3つの郭面と犬走りがつくられており、8つの郭面をもつ連郭式の戦国山城であることが確認されました。そしてこれらの郭面には郭1に2棟、郭3に2棟、郭4に1棟、郭5に2棟の7棟の掘立柱建物があり、他に多数の柱穴と溝が検出されました。また、天神山丘陵の東端部には山城に伴うと考えられる大規模な掘割りが設けられており、丘陵先端を完全に切断するもので、断面が両方V字となるいわゆる薬研堀となっており、上幅15m、深さ10mあります。この掘割りは丘陵北麓部に及んでおり、その部分においても幅6m深さ2mの規模をもっています。そしてその東側が出丸となっています。この出丸には多数の柱穴と、わずかながら平坦部西側に土塁を残しています。



甫崎天神山城縄張り略図(S=1/3,000)

遺物は古銭・備前焼・小皿・鉄器破片・鉄砲玉などが出土しています。

岡山県南部地域の中世山城の調査例は少なく、特にこのような陣城とよばれる野戦陣地の構造があきらかとなったことは大きな成果といえます。(片山泰輔)



甫崎天神山城 郭5建物と郭6



甫崎天神山城 出丸と薬研堀

荒神風呂古墳

—真庭郡落合町—

古墳は岡山県の中北部、真庭郡落合町の丘陵上に所在します。調査は、当該地一帯において県営落合工業団地用地造成工事が計画されているため、接近する弥生時代の集落跡とあわせて4月～7月に実施しました。

調査の結果、古墳は径13～14mの円墳で、墳頂部を除く斜面部に葺石をもつことがわかりました。但し、葺石は殆ど現位置を留めておらず、下方に流れ落ちた状態で検出されました。

古墳主体部は3基を確認しました。1号主体部は墳頂部に設けられた土壇で、枕石が2か所に認められました。遺物は枕石の周辺から管玉2個が出土しました。2号、3号主体部は箱式石棺です。いずれも出土遺物はなく、北東部に枕石をもち底面に小礫を敷いていました。

この古墳を特徴づけるのは墳丘外に設けられた複数の埋葬施設と集石遺構です。墳丘外埋葬施設は、箱式石棺墓2、石蓋土壇墓1、土壇墓1、



荒神風呂古墳 全景(南から)

配石土壇墓1が検出されましたが、いずれも出土遺物はありませんでした。集石遺構は約2×4mの長方形を呈し、おもに拳大から人頭大の石を敷きつめていました。

古墳の時期については埋葬施設からの出土遺物が殆ど無いため明確ではありませんが、古墳と関連すると考えられる集石遺構から5世紀末の須恵器、土師器が出土しており、ほぼこの頃に築造されたものと考えられます。

(平井泰男)



荒神風呂古墳 全体図(S=1/400)



2号・3号主体部(北西から)

- | | |
|--------------------|----------|
| 1. 1号主体部
(土壇) | 4. 箱式石棺墓 |
| 2. 2号主体部
(箱式石棺) | 5. 箱式石棺墓 |
| 3. 3号主体部
(箱式石棺) | 6. 石蓋土壇墓 |
| | 7. 土壇墓 |
| | 8. 配石土壇墓 |
| | 9. 集石遺構 |

普及啓発事業

I. スライド発表会

—「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」—

県下における埋蔵文化財の発掘調査は近年に至っても増加の一途をたどっており、各地で数多くの貴重な発見がなされています。その成果については『発掘調査報告書』や現地説明会などによって公開されているところですが、県下全域で実施されている発掘調査について現地を見学することは、一般の人々にはもとより考古学に携っている者にとっても困難な状況にあります。

そこで文化財センターでは、関係市町村教育委員会の協力を得て、近年実施された発掘調査のうちのおもな遺跡についてその内容、成果を広く一般の方々にも理解していただく目的で、スライドを用いた報告会を下記の要領で開催しました。

1. 日時 7月30日(土) 14:00~17:00
2. 場所 岡山県立博物館 講堂
3. 発表遺跡

- (1)足守川矢部南向遺跡(倉敷市)……文化財センター
- (2)百間川遺跡群(岡山市)……文化財センター
- (3)大廻小廻山城跡(岡山市)……岡山市教育委員会

- (4)津島江道(岡北中)遺跡(岡山市)……岡山市教育委員会
- (5)津島江道(岡山県青年館)遺跡(岡山市)……文化財センター
- (6)第二工業団地関連遺跡(総社市)……総社市教育委員会
- (7)山陽自動車道関連遺跡(岡山市、倉敷市)……文化財センター
- (8)柳谷古墳(津山市)……津山市教育委員会
- (9)大谷1号古墳(北房町)……北房町教育委員会

当日は猛暑の中、県下各地のみならず県外からの方々も含め約150名が参加され、会場はほぼ満席という盛況でした。小、中学生から年配の方までの幅広い階層の参加者の中には、熱心にメモをとられたり、各報告後に気付いた点を質問されるなど、スライド会に対する大きな期待を感じました。

しかしながら、今回のスライド会では、各遺跡の報告が約20分と豊富な内容と成果を発表するには短時間であること、また発表に際しての専門用語の使い方など一般の人々に対する配慮の問題などが今後の課題として残りました。

II. 昭和63年度『夏休み少年考古教室』

当センターでは普及啓発事業の大きな柱として、設立以降毎年小学校の高学年を対象とした『夏休み少年考古教室』を実施してきました。

今年度も岡山市立中山小学校6年生36名が参加して、8月22・23日にセンターにおいて開催しました。

日程については別記しましたが、土器の復元や拓本によって実際に遺物に触れ、観察することや、火おこしや土器による煮炊き、塩づくりを行い原始古代の人々の生活を体験するこ



土器の復元

日 程

第1日	8月22日(月)	第2日	8月23日(火)
10:00	開講式	10:00	体験学習(2) ・火おこし実験 ・土器を使った塩づくりの実験
10:20	センター施設見学		
11:30	考古学入門学習		・土器を使った米、イモ等を煮る実験 ・食器作り
12:00	昼 食	12:00	昼 食
13:00	体験学習(1) ・土器の復元 ・拓本のとり方	13:00	体験学習(3) 遺跡見学
		13:30	山陽自動車道開通遺跡 (津寺遺跡)
15:30	映画 「月の輪古墳」		
16:00	かたづけ	16:00	閉講式

と、および発掘現場の見学によって、郷土の歴史の理解と埋蔵文化財の愛護思想を高めることを目的としています。

当日はセンター職員の指導のもと、子供たちは土器の復元や拓本では失敗をくり返しながらも熱心に取り組み、接合できた土器や出来上がった拓本に歓声をあげていました。また、野外での生活体験では残暑の厳しい中、火おこしに塩づくりにと大粒の汗を流しながら奮闘しました。そして、苦勞しておこした火で炊いたり、焼いたりした米やイモ、貝、魚は好評で、どの子も暑さを忘れて舌つづみをうっていました。

夏休み少年考古教室に行って

溝手 泉

土器の復元は、ジグソーパズルみたいだったけど、ジグソーパズルよりむずかしかった



拓本のとり方

です。だけど本当の土器にさわれたので最高でした。土器は、同じような種類しかないのかと思っていました。だけどたくさん種類があったのでおどろきました。なかなかくっつかなかったのもむずかしかったです。

拓本もたのしかったです。よくみえないようなこまかいところが、紙にうつるのでとてもおもしろかったです。一回失敗したけど4つできたのでうれしかったです。一日目からこんなに楽しかったから二日目も楽しくておもしろいにちがいないととてもワクワクしていました。

すると予想どおりでした。午前中は、土器で米をたいたり、塩をつくったり、火おこし実験をしたり、食器作りをしました。わたしはその中の食器作りと米作りと火おこし実験とさかなを焼いたりしました。火おこし実験では、もうすこしでつきそうできせませんでした。むかしの人は、たいへんだっただろうと思いました。でも土器で作ったごはん、いも、塩、おしるは、お母さんの作る料理と同じくらいおいしかったです。

午後から、自転車で遺跡見学にいきました。わたしは、遺跡を実際に見るのは、初めてなのでこの目で見れるということは、とてもうれしかったです。むかしの人が住んでいた住居あとの土をふめたのでいっしょん顔かにやけてしまいました。むかしの人の家は、今の人の家よりせまいので住みにくかったと思います。わたしも住んでみたいです。

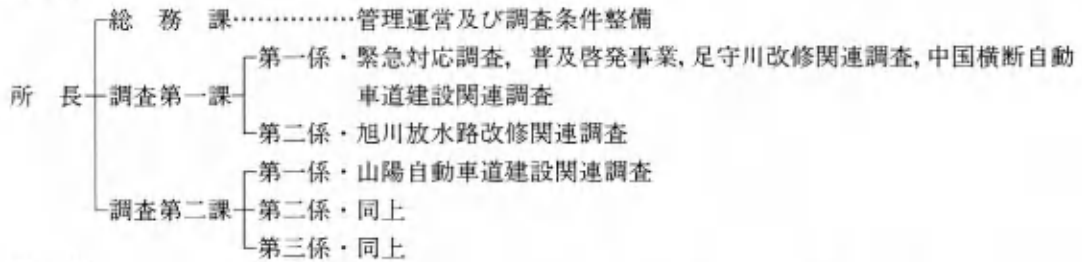
(一部省略)



津寺遺跡の現地見学

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員 (昭和63年度)

〈組織〉



〈職員〉

所長	水田 稔
総務課	
課長	佐々木 清
総務主任	藤本 信康
主任	花本 静夫・岡田 祥司 片山 淳司
主事	杉野 正・嶋田 慶彦
調査第一課	
課長	河本 清
第一係	
課長補佐(係長)	井上 弘
文化財保護主幹	下澤 公明
文化財保護主任	江見 正己・内藤 善史
文化財保護主事	平井 泰男・島崎 東 宇垣 匡雅
主事	大智 浩
第二係	
係長	柳瀬 昭彦
文化財保護主任	平井 勝・岡本 寛久
主事	高田恭一郎・阿部 泰久
調査第二課	
課長	葛原 克人
第一係	

課長補佐(係長)	正岡 睦夫
文化財保護主幹	小柴 充明
文化財保護主査	山磨 康平・二宮 治夫 吉田 正士
文化財保護主任	中野 雅美・川崎 肇
文化財保護主事	小田 卓生・福田 計治 亀山 行雄・大橋 雅也
主事	後藤 信義

第二係

係長	松本 和男
文化財保護主査	岡田 博・浅倉 秀昭
文化財保護主任	栗尾 昭和・井上 篤 垣内 一也
文化財保護主事	片山 泰輔
主事	佐守 学・澤山 孝之 柴田 英樹・弘田 和司

第三係

係長	高畑 知功
文化財保護主査	福田 正継
文化財保護主事	光永 真一・広瀬 隆明 田代 健二・小松原基弘
主事	飯島 賢治・佐伯 英樹 谷岡 孝久

編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (0862)93-3211

●交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分

